



2017 年度 大阪医科大学 (前期) 一般入学試験

1

(1) $(0, \frac{1}{e})$ ($t = \pm 1$)

$$\frac{dy}{dx} = \frac{-2te^{-t^2}}{3t^2-1} = \begin{cases} -\frac{2}{e} = -\frac{1}{e} & (t=1) \\ \frac{2e^{-1}}{2} = \frac{1}{e} & (t=-1) \end{cases}$$

(2) x 軸と平行 $\frac{dy}{dt} = -2te^{-t^2} = 0 \rightarrow t=0, x=0, y=1$

y 軸と平行 $\frac{dx}{dt} = 3t^2 - 1 = 0 \rightarrow t = \pm \frac{1}{\sqrt{3}}, x = \mp \frac{2}{3\sqrt{3}}, y = e^{-\frac{1}{3}}$ (複号同順)

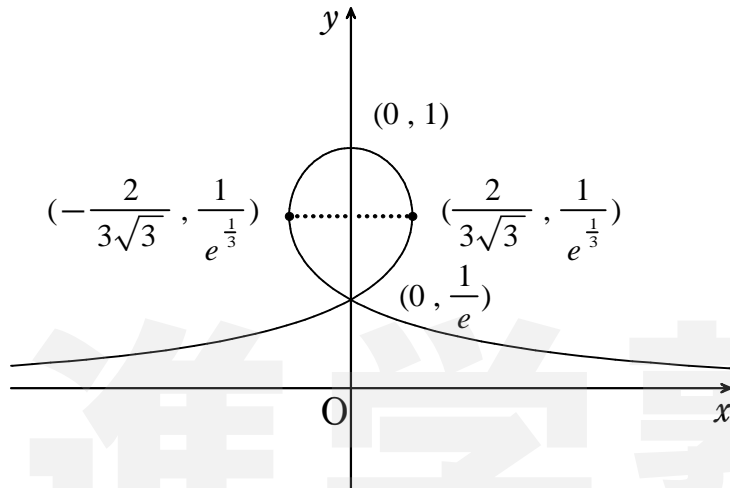
(3) $\frac{dy}{dx} = \frac{-2te^{-t^2}}{3t^2-1}$ より,

$t < -\frac{1}{\sqrt{3}}, 0 < t < \frac{1}{\sqrt{3}}$ のとき $\frac{dy}{dx} > 0$

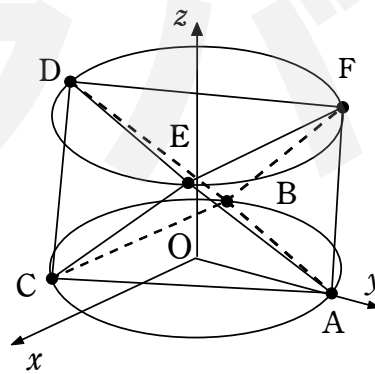
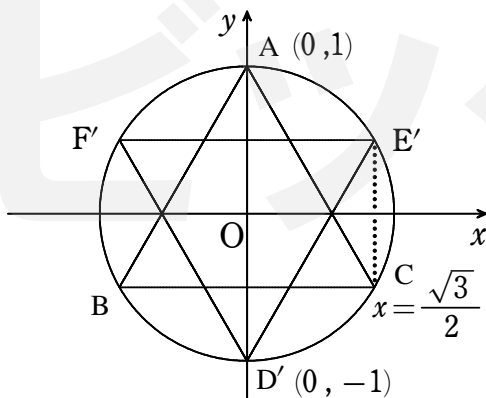
$-\frac{1}{\sqrt{3}} < t < 0, \frac{1}{\sqrt{3}} < t$ のとき $\frac{dy}{dx} < 0$

(4) 増減表をかくと下のようになる。

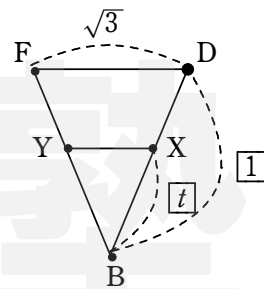
t	$-\infty$...	$-\frac{1}{\sqrt{3}}$...	0	...	$\frac{1}{\sqrt{3}}$...	∞
$\frac{dx}{dt}$		+	0	-		-	0	+	
$\frac{dy}{dt}$		+		+	0	-		-	
$\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$	$\begin{pmatrix} -\infty \\ 0 \end{pmatrix}$	↗	$\begin{pmatrix} \frac{2}{3\sqrt{3}} \\ \frac{1}{e^{\frac{1}{3}}} \end{pmatrix}$	↖	$\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$	↙	$\begin{pmatrix} -\frac{2}{3\sqrt{3}} \\ \frac{1}{e^{\frac{1}{3}}} \end{pmatrix}$	↘	$\begin{pmatrix} \infty \\ 0 \end{pmatrix}$



2



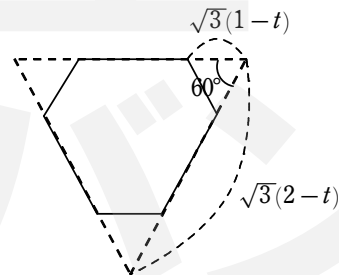
- (1) 平面 $z=t$ と線分 BF, BD の交点を点 X, Y とする.
 このとき $\triangle BDF \sim \triangle BXY$ であり、相似比 $1:t$ であるから
 $XY = tDF = \sqrt{3}t$



- (2) 八面体 K の平面 $z=t$ による切り口の面積を $S(t)$ とすると

$$S(t) = \frac{1}{2} \{ \sqrt{3}(2-t) \}^2 \sin 60^\circ - 3 \cdot \frac{1}{2} \{ \sqrt{3}(1-t) \}^2 \sin 60^\circ$$

$$= \frac{3\sqrt{3}}{4} (-2t^2 + 2t + 1)$$



- (3) 八面体 K の体積を V とすると

$$V = \int_0^1 \frac{3\sqrt{3}}{4} (-2t^2 + 2t + 1) dt = \frac{3\sqrt{3}}{4} \left[-\frac{2}{3}t^3 + t^2 + t \right]_0^1 = \frac{3\sqrt{3}}{4} \left(2 - \frac{2}{3} \right) = \sqrt{3}$$

3

(1) $\triangle ABC : \triangle ACM = BM : CM$ であり,

$$\triangle ABC : \triangle ACM = \frac{1}{2} \cdot c \cdot AM \cdot \sin \frac{A}{2} : \frac{1}{2} \cdot b \cdot AM \cdot \sin \frac{A}{2} = c : b \text{ より,}$$

$$BM : CM = c : b$$

(2) $BM = \frac{ac}{b+c}$ より $AI : IM = c : \frac{ac}{b+c} = (b+c) : a$

$$\vec{AI} = \frac{b+c}{a+b+c} \cdot \frac{b\vec{AB} + c\vec{AC}}{b+c} = \frac{b\vec{AB} + c\vec{AC}}{a+b+c}$$

$$\begin{aligned} \text{ここで、(左辺)} &= a\vec{IA} + b\vec{IB} + c\vec{IC} = b\vec{AB} + c\vec{AC} - (a+b+c) \cdot \vec{AI} \\ &= b\vec{AB} + c\vec{AC} - (a+b+c) \cdot \frac{b\vec{AB} + c\vec{AC}}{a+b+c} = \vec{0} = \text{(右辺)} \end{aligned}$$

(3) $a|\vec{PA}|^2 + b|\vec{PB}|^2 + c|\vec{PC}|^2$

$$= (a+b+c)|\vec{AP}|^2 - 2(b\vec{AB} + c\vec{AC}) \cdot \vec{AP} + b|\vec{AB}|^2 + c|\vec{AC}|^2$$

$$= (a+b+c) \left| \vec{AP} - \frac{b\vec{AB} + c\vec{AC}}{a+b+c} \right|^2 + \text{定数}$$

よって、 $\vec{AP} = \frac{b\vec{AB} + c\vec{AC}}{a+b+c} = \vec{AI}$ で最小となる

4

(1) (i) $a=0$ のとき

袋の中は赤玉0個, 白玉20個なので, $P(a)=1$

(ii) $a=17$ のとき

袋の中は赤玉17個, 白玉3個なので, $P(a)=\frac{{}^{17}C_1 \cdot {}^3C_3}{{}^{20}C_4} = \frac{24}{20 \cdot 19 \cdot 18}$

(iii) $a \geq 18$ のとき

袋の中に白玉が2個以下なので, $P(a)=0$

(iv) $0 \leq a \leq 16$ のとき

4個中赤が0個または1個となればよいので,

$$P(a) = \frac{{}^{20-a}C_4 + {}^aC_1 \cdot {}^{20-a}C_3}{{}^{20}C_4} = \frac{(20-a)(19-a)(18-a)(3a+17)}{20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17}$$

なお, これに $a=0$ を代入すると $\frac{20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17}{20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17} = 1$

$$a=17 \text{ を代入すると } \frac{3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 68}{20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17} = \frac{24}{20 \cdot 19 \cdot 18}$$

$a=18, 19, 20$ を代入すると0

(i)~(iv) より, $0 \leq a \leq 20$ で $P(a) = \frac{(20-a)(19-a)(18-a)(3a+17)}{116280}$ と表わせ,

$P(a)$ は a の多項式である。

(2) $P(a+1) - P(a)$

$$= \frac{(19-a)(18-a)(17-a)(3a+20) - (20-a)(19-a)(18-a)(3a+17)}{116280}$$

$$= \frac{(19-a)(18-a)\{(17-a)(3a+20) - (20-a)(3a+17)\}}{116280}$$

$$= \frac{-12a(19-a)(18-a)}{116280}$$

よって,

$a=0, 18, 19$ のとき $P(a) = P(a+1)$

$a=1, 2, \dots, 17$ のとき $P(a) > P(a+1)$

(3) (2) より, $P(a)$ は減少関数となる。

$$P(0) = 1 (> 0.95)$$

$$P(1) = \frac{19 \cdot 18 \cdot 17 \cdot 20}{20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17} = 1 (> 0.95)$$

$$P(2) = \frac{18 \cdot 17 \cdot 16 \cdot 23}{20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17} = \frac{92}{95} (= 0.968 \dots > 0.95)$$

$$P(3) = \frac{17 \cdot 16 \cdot 15 \cdot 26}{20 \cdot 19 \cdot 18 \cdot 17} = \frac{52}{57} (= 0.912 \dots < 0.95)$$

よって, $a=0, 1, 2$

5

(1) $\triangle OMR$ と $\triangle OM_1R$ において OR は共通・・・①

また OM, OM_1 はそれぞれ弦 AB, A_1B_1 の垂直二等分線より

$\angle OMR = \angle OM_1R = 90^\circ$ ……② $OM = OM_1$ ……③

①②③より $\triangle OMR \equiv \triangle OM_1R$

(2) AB の中点 M を表す複素数は $\frac{\alpha+\beta}{2}$ であり、

$\phi = \cos 2\theta + i \sin 2\theta$ とすると、 $A_1(\alpha\phi)$ 、 $B_1(\beta\phi)$ と表わせ

A_1B_1 の中点 $M_1\left(\frac{\alpha+\beta}{2} \cdot \phi\right)$ と表せる。

よって、 $\angle MOM_1 = 2\theta$ であり、(1) より、 $\angle MOR = \angle M_1OR$ であるから、

$\angle MOR = \theta$

(3) M_1 は M より偏角が 2θ 進んでいることと、 $\angle MOR = \theta$ かつ、 R の偏

角は M と M_1 の間にあることから、 R は M よりも偏角が θ 進んでいる

とわかる。また、 $\frac{OR}{OM} = \frac{1}{\cos \theta}$ であるから、 R を表す複素数を z とす

ると、

$$\frac{z}{\frac{\alpha+\beta}{2}} = \frac{1}{\cos \theta} (\cos \theta + i \sin \theta)$$

$$z = \frac{\cos \theta + i \sin \theta}{2 \cos \theta} \cdot (\alpha + \beta) = \lambda(\alpha + \beta)$$

同様にして、 P, Q も求まり、 $P((\beta+\gamma)\lambda)$ 、 $Q((\gamma+\alpha)\lambda)$ 、 $R((\alpha+\beta)\lambda)$

(4) P, Q, R に対応する複素数を α', β', γ' とおく。

$\frac{\alpha' - \delta}{\alpha - \delta} = \frac{\beta' - \delta}{\beta - \delta} = \frac{\gamma' - \delta}{\gamma - \delta}$ となる $D(\delta)$ が存在すればよい。

$\frac{\alpha' - \delta}{\alpha - \delta} = \frac{\beta' - \delta}{\beta - \delta}$ を満たす δ を求める。

$$(\alpha' - \delta)(\beta - \delta) = (\beta' - \delta)(\alpha - \delta)$$

$$\delta^2 - (\alpha' + \beta)\delta + \alpha'\beta = \delta^2 - (\alpha + \beta')\delta + \alpha\beta'$$

$$\{(\alpha - \beta) - (\alpha' - \beta')\}\delta = \alpha\beta' - \alpha'\beta$$

ここで、 $\alpha' = (\beta + \gamma)\lambda$ 、 $\beta' = (\gamma + \alpha)\lambda$ より、

$$(\alpha - \beta)(1 + \lambda)\delta = (\alpha - \beta)(\alpha + \beta + \gamma)\lambda$$

$$\therefore \delta = \frac{(\alpha + \beta + \gamma)\lambda}{1 + \lambda}$$

同様に、 $\frac{\beta' - \delta}{\beta - \delta} = \frac{\gamma' - \delta}{\gamma - \delta}$ を満たす δ は、 $\delta = \frac{(\alpha + \beta + \gamma)\lambda}{1 + \lambda}$ と表せる。

よって、 D は存在し、 $\delta = \frac{(\alpha + \beta + \gamma)\lambda}{1 + \lambda}$



2017年度 大阪医科大学（前期） 一般入学試験

【 講 評 】

私立大医学部最難関校にふさわしい問題となり、昨年度より難化した。

1番, 3番, 4番は医学部受験生ならば解いた経験のある問題であろうから、ここで得点したい。
初等幾何についての重要性はレギュラー授業の中でもよく話していたが、2番, 3番, 5番と幾何的な問題が多いのも今年の特徴であろう。全体として6割程度は解けてほしい。

1 微分	難易度： 標準
問題文の意味が読み取りづらかったかもしれないが、それさえわかれば標準的な媒介変数を用いた関数の問題である。誘導に上手く乗って、最後のグラフまで描いておきたい。	
2 積分	難易度： やや難
図形をイメージするのが難しかったかもしれないが、(1)の考え方がわかれば切断面の面積から体積を求めるといったいつもの求積問題となる。出来るかできないか大きく分かれる問題であろう。	
3 平面ベクトル	難易度： 標準
(1)は角の2等分線の性質の証明である。(2)(3)は始点をそろえて式を整理するという頻出問題であるから、確実に得点したい。	
4 確率	難易度： 標準
(1)は組合せから求める確率の問題である。(2)は確率の隣接する2項の間に成り立つ大小関係を、差を取ることから調べればよい。(3)は計算が大変であるが、単調性を考え地道に調べていこう。	
5 複素数平面	難易度： やや難
(1)(2)は中学数学の三角形の合同条件を用いる問題。(3)(4)は複素数の積・商を用いた回転・拡大の問題である。誘導に従って、前の問題をどのように利用するか考えながら解いていくとよい。	

最終合格へのラストスパート!!!!!!

医学部後期入試対策講座

昭和大・近畿大・日本医科大・大阪医科大・関西医科大 申し込み受付中

イシャ ニナロウ

お問い合わせは ☎0120-148-276